

# 質問紙を用いた方向感覚研究の現状と問題点

日本心理学会第 68 回大会 ワークショップ 96

2004 年 9 月 14 日 16:00-18:00

企画者 松井孝雄 (中部大学)・内藤健一 (関西大学)  
司会者 加藤義信 (愛知県立大学)  
話題提供者 松井裕子 (原子力安全システム研究所)・内藤健一・浅村亮彦 (北海学園大学)

## 企画趣旨説明

### 質問紙による方向感覚研究

- 方向感覚 (sense of direction): 心理学用語としての「感覚」ではなく、主観的/意識的に捉えられた空間能力の個人的特性を表わす日常的用語。空間認知研究では、その日常的な用語で捉えられている内容を問題にする場合に使う。
- SDQ-S(竹内, 1990; 1992) が代表的。「方位に関する意識」と「空間行動における記憶」の 2 因子からなる。
- 実際の空間課題成績との対応が多くの実験により検討されている (たいていは因子得点の上位群・下位群の比較)。
- 現実の空間行動との関連は強く、机上で測定される能力は関連が弱い (杉村, 1997)。
- 大規模空間での現実の空間行動でも関連がない場合がみられる (松井 (孝), 2004)。

### 問題点

- 因子得点の求め方はこれでいいのか
- 上位群-下位群の比較でいいのか (直線的相関なのか)
- 2 因子でいいのか
- 質問紙と行動はどんなときに関連があるのか、どうして関連があるのか 課題/過程の詳細な分析の必要性
- そもそも、質問紙でいいのか

### 話題提供内容

- 松井 (裕): SDQ-S 拡張の試み
- 内藤: 小規模空間実験との対応
- 浅村: 質問紙による評定自体の問題・質問紙以外による測定の試み

参考: 方向感覚に関する質問紙と空間能力との関連を調べた実験の結果

1997-2003の国内の研究をまとめたもの(松井(孝), 2004)。「 $H > L$ 」は自分の方向感覚を高いと評定した被験者群の成績がよかった(または反応が速かった)ことを、「 $H = L$ 」は差がなかったことを示す。LMはランドマークの略。

文献	学習方法	課題	結果
浅村(1997)	移動状況観察(「地図作成」教示)	方向判断速度 直線距離評定精度	$H > L$ 地点間長いと $H > L$
浅村(1998)	移動状況観察	方向判断精度・距離評定精度・LM 順序再生	$H > L$
浅村(2000)	移動状況観察	方向判断精度・距離評定精度	$H > L$
宮川・菱谷(2000)	移動状況観察	直線距離評定精度	$H > L$
松井(裕)ほか(1999)	移動状況観察	経路自由再生・LM 再認・地図上での経路再生	$H > L$
芳賀(2003)	移動状況観察	移動時間推定精度・地図描画精度・方向判断精度	$H > L$
松井(裕)ほか(2001)	地図(環境との照合不可)	位置関係判断速度	$H > L$
増井・星野(1999)	—	地図への現位置/方向記入速度	$H > L$
鈴木・芳賀(1999)	移動(屋内)	再移動完遂度	$H > L$
Fukuda <i>et al.</i> (2000)	—	乗り物酔いへの耐性	$H > L$
中村(2003)	—	道案内で重視する情報の出発点への近さ	$H > L$
内藤ほか(2002)	迷路課題(小規模空間)	速度	$H > L$
	時計文字盤読み取り(小規模空間)	速度	$H > L$
浅村(2002)	移動状況観察	風景からの位置推定精度 方向判断精度	女性は $H > L$ , 男性は $L > H$ 女性のみ $H > L$
松井(裕)ほか(1997)	移動(屋外)	位置関係判断速度	自己中心的・固定的参照系の場合 L は環境が見えないと低下 H は抽象的参照系, L は自己中心的参照系で整列効果
松井(裕)ほか(2001)	地図(環境との照合不可)	位置関係判断速度	
宮川・菱谷(2000)	移動状況観察	道のり距離評定精度 方向評定	$H = L$ $H = L$
芳賀(2003)	移動状況観察	移動距離推定精度・地図描画速度	$H = L$
村越(1997)	移動(屋内)	経路逆移動速度・方向判断精度・経路内 LM 再認	相関なし
鈴木・芳賀(2000)	移動(屋外)	経路外 LM の方向判断精度・経路逆移動速度	$H = L$
松井(裕)ほか(2000)	移動	位置関係判断速度	$H = L$
	熟知環境	位置関係判断速度	$H = L$
松井(裕)ほか(2002)	熟知環境	位置関係判断速度	$H = L$
	熟知環境(環境見えない)	位置関係判断速度	$H = L$
松井(裕)ほか(1998)	地図上移動想像	方向判断精度 到着位置推定精度	$H = L$ $H = L$ (「自立的」は $H > L$ )
金森・八木(2002)	複数方向の俯瞰画像を観察	再認速度/精度	$H = L$
金春ほか(2003)	—	空間的知能テスト	$H = L$

引用文献

松井孝雄 2004 空間認知 児童心理学の進歩, 43, 55-84.

杉村伸一郎 1997 空間認知 児童心理学の進歩, 36, 25-52.

竹内謙彰 1990 『方向感覚質問紙』作成の試み(1) 愛知教育大学研究報告(教育科学), 39, 127-140.

竹内謙彰 1992 方向感覚と方位評定, 人格特性及び知的能力との関連 教育心理学研究, 40, 47-53.